

幼児体育の一考察

曾 和 光 代 *

はじめに

「幼児体育」とは何かということを考えると、幼児一人一人の発育や発達の度合いを理解した上で指導に当たらなくてはならない。このために、理論上の発育、発達の日安も大切であるが、実際の幼児に接して活動を共にすることの方がより一層、幼児理解ができるであろうと考え、平成10年より神戸親和女子大学では（以下本学という）「幼児体育」の実技科目を公開講座「親と子の運動遊び」とを合体させ、開放講座とした。

以前の「幼児体育」では学生だけで行っていたが、実際に子どもと接するわけではないので、3歳児はどんなことができるか、幼児が発育発達していくのにふさわしいだろうと考えられる例題を順序立てて指導計画を立てながら、その遊びを学生同士で展開していったのであった。しかし、実際に幼児の発育・発達段階をふまえ興味、関心活動意欲はどうであるかは仮定として行った。しかし、その年齢に適切な教材であるのか、実施可能なのか疑問が残った。直接幼児をもたれる親子とふれあって、少しでも教員や保育者を目指す学生への「幼児理解」となれば良いと考え、開放講座とした。もう一点は、親と子でコミュニケーションをとり運動遊びをしてもらう、より一層学生ともコミュニケーションをとり、地域と密着した場として施設、用具等を開放するという意味もある。

以上2点を考慮して、お互いに何らかの、ふれあいを持つことで、学生は「幼児理解」の足がかりとなり、子どもたちは学生に接することで、家庭、家族以外の人にも目を向けて主体的に活動していけるようになってほしい、と考えこのような形にしてみた。

今年で2年目を迎え、何らかの変化が、別々の講座として開講していた時よりも現れているのではないか。前半は幼児理解の第一段階のため、事前指導の講座と、親子の方々と一緒になって鬼遊びや、体育遊び、遊具を使用した遊び、ボール遊び等々共に楽しく遊んでいく。後半はこれらを基礎知識として学生にも指導者側の立場に立って、良き援助や保育の足がかりとなるように、学生自身で指導計画を立てて実践へともっていく。その日、指導当番に当たらなかった学生には幼児の活動の様子を観察記録という形で毎回提出してもらった。理論上と同じ場面もあるが、現実とのギャップ等も体と心で感じとってくれた。子どもたちも、学生（お姉さん）と会うのを楽しみに来てくれる子どもも多くいた。

今回は、幼児と接することにより学生が、よりよく子どもの活動を把握し観察して幼児理解へと結び付けてくれたものと仮定して、学生の幼児の活動記録をまとめてみることにした。

1. 本学での幼児体育遊びのねらい

「幼児体育」のねらいは、基本的には「心身の円満な発達」をうながすことである。幼児の経験や環境、成長過程をふまえて、偏った遊びにならないように、適当な指導と援助、助言を与え、そのことが子どもに興味を持ち自発的に行動に現れて来れば、効果はさらに顕著なものとなる。ルールの決まっているスポーツ種目（バレーボール、テニス、サッカー等々）よりも、その幼児の発育、発達に応じてルールも工夫していける「運動遊び」が良い。幼児期に、特別にトレーニングを課すことは望ましいことではない。そのためには指導内

* 本学教授

容のバランスも考えに入れて、色々な運動遊びの種目と、工夫を重ねてとり入れる努力をし、食事をバランスよくとらないといけないのと同じ位に遊びの要素が欠けることなく、歩、走、跳、投等を基本になるべく多くの「体育遊び」を取り入れるべきである。

幼児期は、走ったり、跳んだり、投げたり、高い所があれば登ったり、活発に活動を繰り返してくれる。この活動の中から感覚や機能も育てられ、遊びによって、全身の器用さを増し、知らず知らずのうちに敏捷性や瞬発力を養い、友達と勝負を競ったりする遊びの中でも、感性を高めたり豊かな情感を育てたりする。ゲーム遊びではルールや秩序を守る習慣や態度を身に付け、他人との協力や責任感などの高い道徳性を学んでいく。

強い筋肉や骨格をつくることに目的があるのではなく、子どもが環境に適応していく能力を、育て伸ばすことが、発育・発達を助ける。これが「幼児体育」のねらいである。

本学における「幼児体育」の講座も、地域と大学のコミュニケーションの場、親と子のコミュニケーションの場として、又幼児の発育、発達に何らかの足がかりになること、さらに学生においては幼児理解の足がかりになるように目的を置いている。決してこの講座を受講したから、跳び箱や、サッカーが上手になるといった講座ではない。

しかし、運動スキルは、発達の視点に立つ体育プログラムにおいては重要な中核となる。幼児の体育はスポーツ種目に必要な専門化された運動スキルに至るまでの基本的な運動スキルである。幼少期に獲得した基本的運動スキルを、より専門化された複雑な動きへと発達させていくため、段階を経て、運動制御、緻密生、正確性を身につけていき、サッカー、テニス、ゴルフ、野球、バスケットボール、器械体操、ダンス等の活動に応用されていくのである。

基本的なスキル内容としては、

移動運動－はう、歩く、走る、跳ぶ、ポップ、スキップ、滑る、等。

操作運動－ボール転がし、投げる、蹴る、たた

く、打つ、弾ませる、受ける、捕らえる、等。

姿勢制御運動－曲げる、伸ばす、ひねる、回す、振る、バランス、転がる、スタートする、止まる、よける、方向転換、等。

主に移動運動はサーキット遊びの中で、操作運動はボール遊びの中で、姿勢制御運動においては、親子体操や鬼遊びの中で、サーキット遊びの中にも含まれる動きである。プログラムは基本的な運動能力を発達させるように組んでいる。運動遊びを通して身体活動の楽しさを身に付けて欲しい。

2. 「親と子の運動遊び」における実践内容

1. 対象－神戸親和女子大学（神戸市北区鈴蘭台）周辺に住まわれる地域の3～5歳児をもたれる親子40組。（平成11年度は実際の登録家族は60組であった）
内訳：3歳児42人
4歳児38人
5歳児17人
2. 期間－平成11年5月15日（土）～平成12年3月11日（土）までの土曜日23回程度
3. 場所－本学体育館及び学生会館和室等の本学の施設を使用
4. 活動内容
親子体操、機具、遊具を使用してサーキット遊び、鬼遊び、ごっこ遊、歌を



写真1 はやくはくの順番がこないかなあ！



写真2 ぼくの番だ エイッ!

伴う遊び、手遊び、ゲーム等総合的な遊び

時間配分

9:40一点呼

こんにちは体操（準備体操）
親子体操（親子で柔軟や身体を暖めたり、寒い日は鬼遊びの時もある一親子でスキンシップ）

10:00—サーキット遊び

跳び箱、マット、平均台、トランポックス、フープ、つな、トンネル、すべり台、積み木等の遊具をセットしていく。これらの配置は毎回変わるが、子どもたちとセットできるものは一緒にやっていく。

10:30 小休止

トイレ、汗をかいた者は着替えたり、汗をふいたり、お茶を飲む等

10:40

サーキットの遊具を子どもたちと片付ける。そのあとボール遊び。すぐにボールを使わないで鬼遊びや身体表現等から入ることもある。ボールにしたしむ事から、ボール扱いをおぼえる。

11:10

ボールをなおす、片付け等。
手遊びで身体表現（クールダウン）

に当たる。

絵本を読んでもらう。

シールをはってもらおう。

11:30

お帰り

以上が主な活動である。その日の指導計画と少し時間のずれがあるが基本的な時間の割ふりである。今回は特にボール遊びについての実践指導と観察に絞ってみて行く。

3. ボールを主に使った遊び

この講座は総合的な遊びを実施しているが、大きく分類すると、前半は導入部分で親と子のふれあいを中心とした身体活動を20分程度、次に展開部分でサーキット遊びを実施後半は休みを入れて、ボール遊びを中心に20分～30分程度、しめの部分で、鬼遊び、ごっこ遊び、歌を伴う遊び、手遊び、絵本を読むなどを実施。これらは時に、導入部分でとり入れたり、つなぎの部分としておこなうことがある。

主な運動遊びの中で、サーキット遊びについては年齢差に関係なく、雰囲気になれてくると、一人で遊びはじめる。もちろん、年齢により機具、遊具の使い方の違い、動きの違いはあるが、その子ども一人一人に合った利用の仕方、遊具を工夫しながら興味を持ち意欲的に遊び始める。例えば、高いところから飛び降りる場合、年長児は前に両手をだしてバランスをとりながら前方へ跳んで降りようとするが、年少児ほどすべり台のようにすべり降りてくる。中には向きを変えて、おしりを向けてゆっくりと、ずり降りる感じでおりてくるが、自分で降りてくることに満足しているので、何度もあきずにやる。平均台においても送り足でバランス良くわたる、くぐる、馬乗り、手を持ってもらう等、それぞれ利用のしかたがちがってくる。しかし、子ども達の運動意欲をある程度持続することが可能である。年齢にこだわることなく、みんな一緒に遊べるのである。ボール遊び

となるとなると、年齢差、つまり、幼児の発育・発達段階を知って遊びを工夫する必要がある。子ども達は体育館へ入ってくると、おいてあるボール入れから好きなボールを取って遊び出すそれぞれ、ボールをもって遊ぶのは好きであるが、みんな一つのことをするには、まとまりにくい。鬼遊びでもルールを複雑にすると年少児は理解できないので、不安感をまし参加したがる。当然のことである。簡単にすると年長児がすぐに退屈してしまう。この兼ね合いがボール遊びにもいえる。

後半に実施しているボール遊びの持つ弾む、転がるの特性をいかして、運ぶ、投げる、捕らえる等の基本的な動きにルールを幾つか入れてゲーム形式にすると、年長児には興味深く、意欲的に参加をしてくれるが、年少児には理解できずにおわってしまうことがある。発育・発達段階に応じて、又、遊びの内容を変化させながらボール遊びの楽しさが味わえる工夫が必要になってくる。ボールは持つ、抱える、転がす、はさむ、のせる、投げる、打つ、蹴る、突く、落とす等、幼児が可能な運動遊びの要素を多くもっている遊具である。

ボールを使ったスポーツ種目は多くある。その

ボールの種類も大、中、小とあり、ボールの形が違うのもある。幼児が扱うのに可能なボールを利用して幼児が楽しく遊んで、意欲的に取り組んでくれるには、遊びを押し付けるのではなく、幼児の創造性を発揮させ、それを発展させる遊びへともっていくためにはどのように、工夫すればよいのか。ボール遊びの魅力を探り出して行く。

ボール遊びの面白さをグループに分け、各グループに工夫をこらし計画を立てて実践してもらった。ボール遊びは「親と子の運動遊び」のプログラム中、後半の遊びになる。後半の学生は、主たる教材としてボールを使用した「ボール遊び」を主に指導計画をたてるようにもっていき、「しめ」の部分では手遊び、絵本読み等を計画の中に織り込んで指導案を立てていく。グループは4人～6人ぐらいの人数で、指導、援助に当たり、その他の学生は幼児の活動観察に当たる。時間は30分。教材の主たるものはボール。どんなボールでもよい。グループで作っても良い。対象、3才～5才児の子どもとその親。以下「ボール遊び」を主に指導計画を立て、5グループの学生の実践記録をもとにボール遊びを考察していく。

4. 実践記録と観察についての考察

1. 指導案1

「親と子の運動遊び」 3歳～5歳児の親子40組 平成11年10月23日(土)

本日のねらい	遊びの中での親や友達とのコミュニケーションを楽しむ		
活動の内容	こんにちは体操、親子体操、サーキット遊び、ボール遊び		
環境構成点	親子で関わりがもてるような場を安全に留意して設定する		
時間	環境構成	予想される幼児の動き	保育者の援助
9:40	<ul style="list-style-type: none"> 階段、ステージの片付け、掃除 カセットテープ、デッキ、マイク、ビデオ準備 使用する遊具の雑巾がけ 遊具の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 体育館に集合する 先生の話を聞く 「こんにちは体操」をする 	<ul style="list-style-type: none"> 集合しやすいように大きい声でわかりやすく声をかける 集合場所を指定し、分かりやすいようにタンバリンなどを使用する 楽しい雰囲気づくりや笑顔で対応する 幼児から見やすい位置でやる 動作を大きくし、言葉で動きを伝える

幼児体育の一考察

時間	環境構成	予想される幼児の動き	保育者の援助
10:30		<ul style="list-style-type: none"> 親子体操をする 親子で歩く 親子でコミュニケーションをとる 先生の周りに集合する 遊具の説明をする 親子で一周する 幼児が好きなところから周る 休息する 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者自らが楽しく動作をし、雰囲気づくりをする 全体の動きをみながら進めていく カウントをゆっくりと、親子で十分楽しめるよう配慮する 2人ペアになれるよう学生も補助についてもらう 集合場所がわかりやすいように手をあげる、マットの上に集まるなど目標を決める 笑顔で対応し、遊具の説明をする ルールを説明する 楽しく表現し、期待がもてるようにする 遊んでいる幼児は、休息だということがわかるように伝える 無理に遊びを中断させない
10:40		<ul style="list-style-type: none"> 先生の周りに集合する 片付けをする 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児が片付けやすいものから片付けるように知らせる 片付けやすいようひとつ片付けるとマットの上に戻ってくるように言葉がけをする 跳び箱など大きい物は、保育者が片付ける 危険な所は、保護者が片付けるようにする
10:55		<ul style="list-style-type: none"> ボール、ダンボールを準備する 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすいよう実践も加えて説明する 期待を持たせるよう笑顔で説明する だいたい2チームに別れたら移動し、もう一度簡単に説明する 一度実践しながら説明を入れる ゲームの感想を聞き、今後の反省に生かす 楽しそうに、分かりやすく、大きい動作をする 何度か繰り返す
11:20			<ul style="list-style-type: none"> 今度もまた参加したいと思うように言葉がけをしながらシールをはる 気持ちよく帰れるように大きい声で、明るくあいさつをする
11:30			

以下指導案2より、紙面の都合上ボール遊びを主に記していく。

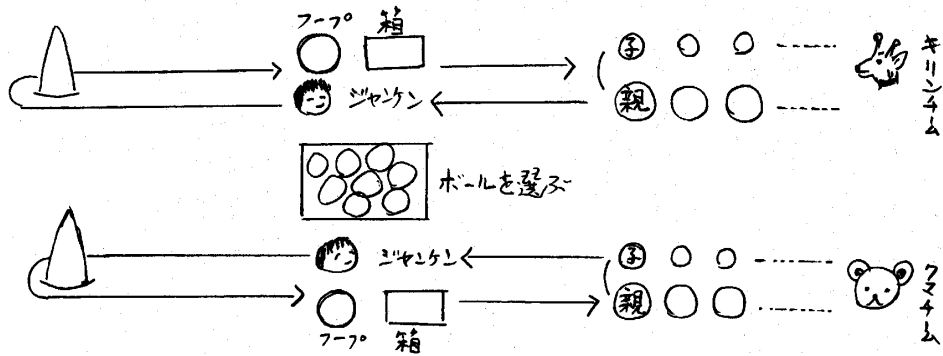


図1 ボール遊び① -競争遊び-

10月23日(土) 10時55分(担当学生4名)

ボール遊び① -競争遊び-

図1のようにおねえさんとジャンケンし勝ったらダンボールを入れてコーンを回って、入れた場所よりボールをとって今度はお姉さんにボールを渡し次のお友達にバトンタッチ(バトンは紅白玉)

2. 競争形式にしたボール遊びについての考察

A. ボール遊びに積極的で容易にやれると見られる子どもの態度、様子

学生の観察・記録

- ① 自分が早くやりたくて待てずに走り出してしまふ。
- ② 順番がまわってくると楽しそう。
- ③ ボールの種類が多かったので子ども達が選べて楽しそうである。
- ④ ボールで遊びを競争感覚ではいが、遊び感覚で楽しんでいる。
- ⑤ 順番待ちの時手伝っている子どもがいる。
- ⑥ 5歳児になると「頑張れ」と友達に応援を送っている。
- ⑦ 自分の番の時は早くゴールに着きたい気持ちをもっている。
- ⑧ 「早く順番がまわってこないかなあ」と口に出して待っている。
- ⑨ 待っている間に、お姉さん(学生)とジャンケンの練習をしている。勝つと喜ぶ。
- ⑩ アンカーを決めるのにもめていたが、自分達でジャンケンをして解決していた。

B. ゲーム遊びに消極的または困難であったとみられる子どもの態度、様子

学生の観察・記録

1) ゲーム遊びでの持続時間が長すぎておこる態度、様子。

- ① 疲れた表情
- ② つまらなさそう
- ③ 暴れやすい
- ④ うるさくなる
- ⑤ 退屈そう
- ⑥ 自分が終われば他の遊具で遊びだす、好きなことをする、他の所を走り回る。
- ⑦ 待ち時間が長く何をかするのかわれてしまふ。
- ⑧ 応援していても続かない。

2) ゲームのルールが難しくおこる態度、様子

- ① ジャンケンが難しい、理解できない年齢の幼児。(母親が代わりにする)
- ② 競争心があまりない。
- ③ フープの中へボールを入れるのが難しいようである。(達成感がない)
- ④ ルールが難しくゲームをやっていると何個か設定したセクションを忘れてしまふ。
- ⑤ バトン代わりに玉を友達に渡すのを忘れる。
- ⑥ 内容が難しくゲームの仕方を聞き流している幼児もいた。理解できてい様子。

C. 学生同士の感想

- ① 説明する位置が悪く幼児に見えにくい。
 - ② 動作は大きめに幼児の方を見て話すべきである。
 - ③ 年齢が低いので一個づつボールを持たせて競争しないボール遊びがよい。
 - ④ 教材としては対象年齢礎をもう少し高くした方がよい。3, 4歳には難しい。
 - ⑤ 落ち込んでいる子どもに安心させる言葉がけを身につけておこなうてはと感じた。
- 以上5点がこのゲームの展開実践にあたった学生への指導上の留意点である。

指導助言と感想

このゲーム遊びはルールとして次のセクションが考えられる。はじめに①お姉さんとジャンケン。②負けたらフラフープの中へ置き、買ったらダンボールの中へ入ることを頭においてボールの選択。③負けたらフラフープ、勝ったらダンボールの中へ入れる。④コーンを廻る。⑤ボールをとってお姉さんに渡す。⑥次の友達へバトンタッチと6つのセクションがあり、幼児には多すぎた。親子でクリアするのでどうにか進んだが、子ども自身の達成感よりも親子の協力であるが、それでもセク

ションが多すぎたようだ。ボール入る場所も子どもの入れやすいかごや箱など深い入れ物を用意してやるとよい。ボールを選んで持ってコーンをまわって走り帰り、箱の中に入れて次の友達にタッチ位が丁度よかった。3項目位のセクションで良いと考えられる。

次に考えられるのが、持続時間が短い、対象者の年齢の低い幼児では、15~20分でゲーム遊びをくんでも自分の待ち時間が長いと気が他へいってしまうので、列を親子でも5~6人位にとどめ列を増やすと、もう少し子どもも退屈せずにすんだのではないかと考えられる。

- a. 全体的には企画はおもしろかったが幼児には難しい。
- b. 2チーム(1チーム15組)あったので持ち時間が長すぎた。4列位がよかった。
- c. ジャンケンが理解できない、難しい年齢。
- d. 対象者の年齢差があるのがゲームが難しいのと、持ち時間が長い、退屈してしまう幼児が多い。

このゲームを幼児向きにするには、セクションの数を少なくする。しかしボール保持やかかわる回数は多くして、持ち時間を短くして展開を早くしてやるのがポイントとなる。

1. 指導案2

「親と子の運動遊び」 3歳~5歳児の親子36組 平成11年10月30日(土)

本日のねらい	親子で体を十分に動かし、運動する楽しさを味わう		
活動の内容	こんにちは体操、親子体操、サーキット、ボール遊び		
環境構成点	遊具を安全に並べ、友達や親と一緒に心ゆくまで遊べるような時間、場所を作る。子どもたちが自らすすんでボールに触れるようにする		
時間	環境構成	予想される幼児の動き	保育者の援助
9:40	<ul style="list-style-type: none"> ・階段、ステージの片付け、そうじ ・カセットテープ、デッキ、マイク、ビデオの準備 ・使用する遊具の雑巾がけ ・遊具の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館に集合する 	<ul style="list-style-type: none"> ・一度自分達で一周して安全確認をする ・集合しやすいように大きい声でわかりやすいよう言葉がけをする ・集合場所を指定し、わかりやすいようにタンバリンなどを使用する

時間	環境構成	予想される幼児の動き	保育者の援助
10:55	<ul style="list-style-type: none"> ボールを準備する カラーコーン, トンネル, 大玉を準備する 笛を準備する 	<ul style="list-style-type: none"> 先生の周囲に集合する 次のゲームの説明を聞く 4種類のうちから好きなボールを選ぶ ボールの色で4チームに別れる 笛を吹いたら次に進む 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすいよう実践も加えて説明する 期待を持たせるように笑顔で説明する ボールの数を合わせておく 分かりやすいようにボールをもって移動する場所を指示する 1チームずつ説明していく ゲームをするたびに簡単な説明をする
11:15		<ul style="list-style-type: none"> 先生の周囲に集まる 手遊びをする <ul style="list-style-type: none"> ピクニック 絵本を見る もこもこ 	<ul style="list-style-type: none"> 今日何が楽しかったかを尋ねる 楽しそうに大きい動作で何度か繰り返す 幼児が分かりやすいようにゆっくり, はっきり歌をうたう ゆっくり本を読む 見やすいように本を少し高めにあげる 身体表現を入れるなど工夫する 次回への期待を持てるよう笑顔で対応する
11:30		<ul style="list-style-type: none"> シールをはる 	

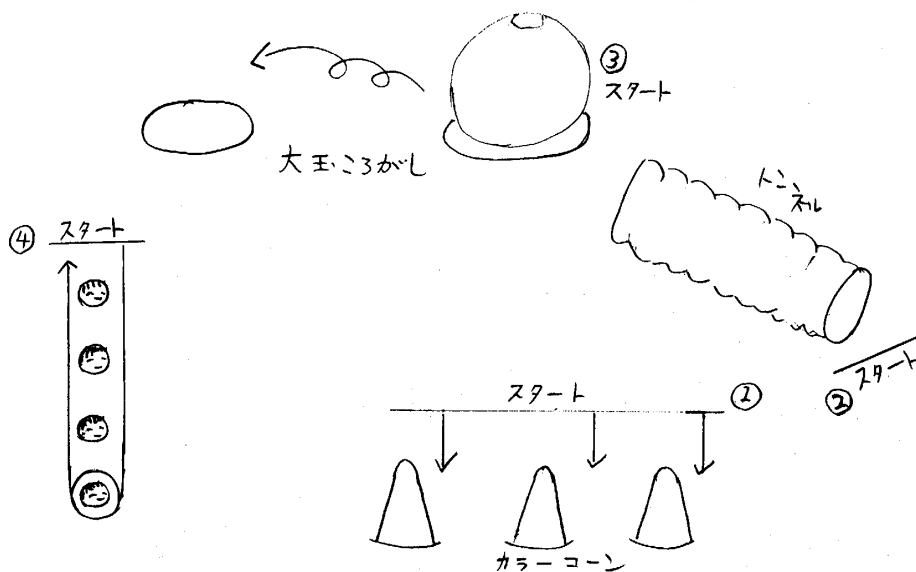


図2 ボール遊び② -サーキット形式-

10月30日(土) 10時55分(担当学生7名)

ボール遊び② -サーキット形式-

遊び方法

図2のように4ヶ所に遊び方の違う, ボール遊びを設定。これを4ヶ所を笛の合図があるまで続け, 合図で次のところへまわる。

- ① カラーコーンに向かってボールを蹴る。
 - ② ボールをもってトンネルをくぐる。
 - ③ 大玉を転がす
 - ④ お姉さんの周りをボールがとられないように持って回る。
- 以上を笛の合図で次に進む。

2. サーキット形式にボール遊びを組んだ場合の考察

A. サーキット遊びに積極的、または容易にこなせたと見られる態度、様子

学生の観察・記録

- ① お姉さんの間を積極的にダッシュする子もいた。
- ② お姉さんにボールをとられないように必死にもって走り抜ける子もいた。
- ③ 4種類の色、形の違ったボールを使用したので子どもたちが選ぶのに楽しそうだった。
- ④ ボールをうれしそうに運んでいた。
- ⑤ ボールを持ってなかなか片付けようとしなない。(手放したくない)
- ⑥ 好きなボールをとってくる時、うれしそうに走ってきた。
- ⑦ ボールが的に当たると自慢げにして、次に当てようと思う的を教えてくれる。
- ⑧ 大玉ころがしも積極的に前に出て、とられようとする。
- ⑨ ボールをとられないように、一生懸命ボールを守りながら走る。
- ⑩ トンネルをぬけた時はうれしそうな顔ををする。
- ⑪ 好きなボールをとってくる。自分のやりたい事をしている時は楽しそう。
- ⑫ 邪魔をしてお姉さんがとろうとすると、それが楽しくてその駆け引きを楽しんでいる子どもがいた。
- ⑬ 大玉を転がすことが楽しみのようで、そこからなかなか離れない。
- ⑭ お母さんが一緒だと安心して活動している。
- ⑮ ボールを選ぶ時に、幼児の好きなボール選ばせて、グループ分けしたのはよかった。うれしそうだった。
- ⑯ ボールの色を変えることにより混雑を防いでいた。
- ⑰ 大・小のボールの扱いや転がす動作も幼児には大事な学習となっている様子だった。
- ⑱ ボールの色を変えることにより、混雑を防

いだ。子どもたちは喜んでた。

- ⑲ 投げるコーナーもあり子どもは楽しそうだった。
- ⑳ 順番待ちをする遊びではないので退屈していなかった。

B. サーキット遊びに消極的、または困難とみられと態度や様子
学生の観察・記録

- ① ボールを持ちながら走る時4番目のお姉さんの周りをまわるのは難しそうだった。
- ② ルールが理解できない。
- ③ 母親が見てくれているが不安そうに常に母親を見ていた。
- ④ 4種類のボール遊びがあったが、もうひとつ子どもは分かっていたいなかった。
- ⑤ 子どもたちは指示や説明が少なかったので、どう行動したらよいのか分かっていなかった。
- ⑥ 分からなくてボーッとしている子がいた。
- ⑦ もう少し親子で楽しめる遊びであればよいと思う。

C. 学生同士の感想

- ① 子どもとをよく把握できていた。
- ② 保育者(当番のお姉さん)のかかわり方がよい。
- ③ サーキットで子どもの興味を引かない所もあるので遊具の組み方を保護者は考えなければならぬ。
- ④ 指示する保育者(当番のお姉さん)が次々何をすればよいのか分かっていないので幼児がうろろする。指導者の意図通り動いていない
- ⑤ 無理にサーキットの輪の中に入れようとしたので幼児はあきだす。
- ⑥ その日する事を決めていても幼児は自分の動きたいように動くので、子どもと接する時には臨機応変というのがその通り、と痛感した。
- ⑦ 幼児は興味を持ったことは、気の済むまで

やりたがるので、笛の合図で次へ進むのは難しい。

- ⑧ ボールを使った内容でスムーズに流れを作ろうとするのが難しいようだった。ただ単のサーキット（遊具の使用のみ）の方が指導しやすかったのではないかな。
- ⑨ メリハリの付けた話方をしないと幼児は退屈そう。
- ⑩ 保育者の説明がよく分からなかったので子どもも何をしてよいのか迷っていた。
- ⑪ ボールの種類でグループ分けはよかった。
- ⑫ 保育者自身が教材を把握できていないので、大玉転がしの時どこまで行ったらよいのか分からない始末。
- ⑬ サーキットの方がよかった。
- ⑭ ルールがもうひとつ分からなかった。
保育者が見本を見せるべきだ。
- ⑮ 子どもは時間を決めておいても次に移行（移動）しようとしなない。

指導助言と感想

- ① 一人一人が子の指導案をマスターしていないので子どもにこちらの意図が伝わらず、スムーズに子どもが動いていない。（準備はしていたが少し子どもはそれ以上早く動き出し動転してしまう）
- ② 当日の打ち合わせ事項が多過ぎる。
- ③ 笛を吹いて移動が難しい。流れがうまくいかない。
- ④ 説明が難しすぎて子どもに動いてもらうのが難しい。
- ⑤ 子どもはルール通りに動けない所もあるので臨機応変にルール改正をする。
- ⑥ 指導計画通りにいかない予想外のことを幼児はするので臨機応変に動けるようにする。
- ⑦ 見本をやって見せる方がよい。（具体例を示す）
- ⑧ イメージと実際やってみるのとは違ってく場合も臨機応変に対応できるように。

1. 指導案 3

「親と子の運動遊び」 3歳～5歳児の親子28組 平成11年11月20日（土）

本日のねらい	親子で体を十分に動かし、運動する楽しさを味わう		
活動の内容	こんにちは体操、親子体操、サーキット、ボール遊び		
環境構成点	遊具を安全に並べ、友達や親と一緒に心ゆくまで遊べるような時間、場所を作る。子どもたちが自らすすんでボールに触れるようにする		
時間	環境構成	予想される幼児の動き	保育者の援助
9:40	<ul style="list-style-type: none"> ・階段、ステージの片付け、掃除 ・カセットテープ、デッキ、マイク、ビデオの準備 ・使用する遊具の雑巾がけ ・遊具の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館に集合する ・先生の話聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・一度一周して安全確認する ・集合場所を指示し、分かりやすいようにタンバリンなどを使用する ・楽しい雰囲気づくりや笑顔で対応する
10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙を準備する 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の周囲に集合する ・片付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が片付けやすいものから片付けられるよう設定する ・片付けやすいよう片付けがひとつ済むとマットに戻ってくるようにしておく ・跳び箱などの大きいものは保護者が片付ける ・危険な所への収納は保護者が行う ・楽しみながら片付かされるようにする

幼児体育の一考察

時間	環境構成	予想される幼児の動き	保育者の援助
11:00	・ダンボール箱, 紅白の玉を準備する	<ul style="list-style-type: none"> 先生の周囲に集合する <ul style="list-style-type: none"> 次のゲームの説明を聞く 親子でペアになる 親子で一緒に新聞紙に乗る 保護者とジャンケンをする 負けたペアは新聞紙を半分に折る 新聞紙をぐちゃぐちゃに丸める ボールを持って動いているダンボールの中に入れる 指示された玉だけをダンボールに入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 実践を加えながら説明する 親子でペアになれない所は学生に援助してもらう 説明が理解できたかどうか尋ねる 新聞紙を配る 説明より分かりやすくするためゆっくり進行していく 新聞紙を配る 説明をより分かりやすくするためゆっくり進行していく 大きく, 高いところでジャンケンをする このゲームで親子のスキンシップはかるように配慮する ゲームが途中で切れないようある程度ゲームが終わりかけたら次に進む 新聞紙をボールに見たてるようにする 紅白の玉を床を四方八方にばらまいておく 何色の玉をダンボールに入ればよいか分かりやすいように大きい声で言葉がけをする 幼児の走るスピードに合わせて走る それぞれの玉が全てのダンボールに入れば終了する 時間を考えて何度か繰り返すようにする 3回目なのでスピードを上げたり変化をつける 見やすい所で大きい動作で行う 身体表現を加えて読む 幼児の本への反応を見ながらすすめる 次への期待, 目標を持てるように言葉がけをする 幼児に満足感を与えられるようにする
11:20		<ul style="list-style-type: none"> 手遊びをする「ピクニック」 	
11:25		<ul style="list-style-type: none"> 絵本を読む「もこもこ」 シールをはる 	

11月20日(土) 10時55分(担当学生5名)

ボール遊び③ -新聞紙を使って-

導入として新聞紙でジャンケン遊びをする親子で新聞紙の上で仲良しのり。お姉さんとジャンケンして負けると一回折って新聞紙を小さく折り, だんだんと負けるにつれて, 親子で工夫しないと新聞紙の上ののっていらなくなる。新聞紙の上

に親子でのれなくなったら負けというゲーム。このゲームが終わった後に, しわくちゃになった新聞紙をまとめてボールを作り, これに紅白玉も加えて遊ぶ。

遊び方法

① 紅白玉, 新聞紙玉をお姉さんが引っぱって走るダンボールの箱の中へ投げ入れる。玉入

れ。

- ② 箱に入った玉をおもいきりちらかす。
- ③ 紅, 白, 新聞紙玉とそれぞれのダンボール箱を引っぱってお姉さんが走るの、紅, 白, 新聞紙玉とそれぞれのダンボールのボール入れを追いかけて走って入れる。

2. 身近な新聞紙を使ったボール遊びについての考察

A. ゲーム遊びで積極的, または容易にやれるとみられた態度, 様子 学生の観察・記録

- ① 親子でコミュニケーションがとれていた。楽しそうだった。
- ② 子どもは集中していた。
- ③ ジャンケンに負けないように頑張っていた。
- ④ 新聞紙で様々な大きさのボールを作っていた。
- ⑤ 動く, 箱の中へ投げ入れるのがうまくいかないと, 箱をちょっとつかみ, ボールを入れたり考えながら投げ入れていた。
- ⑥ 積極的に分けて集めるなどの変化を加えたので集中して次は何の種類のボールを集めるのか集中して聞いており一生懸命ボールを集めてくる。
- ⑦ 新聞紙で親子のふれあいがあり, 子どももニコニコしていた。
- ⑧ ダンボールを追いかけてボールを入れるのも楽しそう。
- ⑨ 新聞紙を使った遊びは親子のスキンシップがとれた。
- ⑩ ジャンケンに負けて新聞紙がだんだん小さくなると「こまったなあ」という顔をしながらも工夫してのっている。
- ⑪ 3種類のボールの片付け大作戦に, 箱の中にボールを入れようとお姉さんの後を追いかける。
- ⑫ 箱にボールを入れるのに一生懸命になって追いかけていた。
- ⑬ 新聞紙が小さくなると親にだっこしてもらい楽しそうだった。
- ⑭ 新聞紙から落ちないようにすることを楽しんでる。
- ⑮ 片付ける時, ボールの数が多く片付けるのに疲れてしまっていたが, 楽しく片付けてくれていた感じがする。
- ⑯ 箱の中にボールを入れるのを飽きずにやっていた。
- ⑰ 箱を持ち止めて入れる子もおり, 中へ入って乗る子のいた。
- ⑱ 全体的に楽しそうにやっている。
- ⑲ 箱にボールを入れて片付けるのは, スピードを落とすと, 箱をつかまえて離れない。今度は子どもが引っ張って箱を動かし始めた。
- ⑳ 色(紅, 白, 新聞紙)を指定して片付けをしていたが, 子どもはちゃんと分類して入っていた。
- ㉑ 幼児も学生も積極的に活動し, 終始子どもの笑顔がみられた。
- ㉒ ボール入れの箱を追いかけるのは楽しそうだった。
- ㉓ 新聞紙の上で片足立ちで上手にのれている。
- ㉔ 新聞紙をちぎって自分の丸められる大きさに切って丸めていた。
- ㉕ 恥ずかしそうに丸めた新聞紙ボールを持って立っていたが, だんだんと箱を追いかけるようになる。
- ㉖ 新聞折りはこども達も一生懸命協力してやっていた。
- ㉗ 3色のボールを動いている箱の中に入れるのは楽しそうだった。
- ㉘ 親子のスキンシップがとれていた。
- ㉙ ゲーム遊び感覚で片付けをしていた。
- ㉚ 新聞紙を使って折ったり曲げたり, ボールにしたり, たくさんのボールができて子どもは喜んでた。
- ㉛ 3色ボールのお片付けは子どもに興味を引いた。
- ㉜ 箱の中にボールを入れるのは興味を持ったようだ。

幼児体育の一考察

- ③③ 子どもはジャンケンゲームを理解できていなかったが、お母さん、お姉さんと一緒にやれたのでコミュニケーションもとれ楽しめていた。
- ③④ 3種類のボールを片付けるのは楽しそうにやっていた。
- ③⑤ 動くものを追いかけるのは子どもの心をつかんでいるようで、楽しそうに箱を追いかけてボールを入れていた。
- ③⑥ ボールを持って一生懸命に追いかけていた。
- ③⑦ ボールを持たせてあげると多くて持ちきれないのか一つずつ落としてしまい、最後の一つになってしまった。他のボールを拾うと持っていたボールを落とし、新しいボールが一つになってしまったが、それを持って箱を追いかけて走っていった。

B. ゲーム遊びに対して消極的、または困難とみられた態度、様子
学生の観察・記録

- ① ルールがもうひとつ分かっていないらしくジャンケンに勝っても新聞紙を折ろうとする。
- ② 新聞紙がなかなか丸めにくそうで、床につけてペシャンコにしてしまう。
- ③ 箱に追いつかないとつまらなさそうな顔をする。
- ④ ジャンケンをいやがる子がいた。声かけを

- してみたが興味を示さなかった。
- ⑤ 追いかけるのに飽きてくる子がいた。
- ⑥ 新聞遊びは、子どもだけでやるのは難しうだった。
- ⑦ ジャンケンのルールがまだもうひとつのみこめていなく、あとだしジャンケンをするのがかわいかった。

C. 学生同士の感想

- ① 身近な所にある教材の面白さ、気軽さを感じた。
- ② 発展遊びが可能な教材であった。
- ③ 回復力のある教材であった。
- ④ 保育者が元気よくないと、子どももついてこないなと思った。
- ⑤ 子どもが箱にしがみついてくるのには当惑した。

指導助言と感想

- ① 身近な教材でなかなか上手に子どもたちを把握していた。
- ② チームワークがとれていた。
- ③ 一人一人が教材を把握できていた。
- ④ ジャンケンがまだできない子どもへの配慮。
- ⑤ 動いているボール入れの動きなどの調整をとるとよい。

1. 指導案 4

「親と子の運動遊び」 3歳～5歳児の親子33組 平成11年11月27日(土)

本日のねらい	からだの色々な部分を使った活動を楽しむ		
活動の内容	こんにちは体操、親子体操、サーキット、ボール遊び		
環境構成点	幼児が楽しめる運動の場を作る		
時間	環境構成	予想される幼児の動き	保育者の援助
9:40	<ul style="list-style-type: none"> ・階段、ステージの片付け ・カセットテープ、デッキ、マイク、ビデオの準備 ・使用する遊具の雑巾がけ ・遊具の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館に集合する ・先生の話聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置した遊具の安全確認をする ・集合しやすいよう大きい声で分かりやすいよう言葉がけをする ・集合場所を指定し、分かりやすいようにタンバリンなどを使用する

時間	環境構成	予想される幼児の動き	保育者の援助
10:50	<ul style="list-style-type: none"> • あみ、積み木、 ネットを準備する • 動物の絵をかいた画用紙を遊具に張っておく • カセットテープを用意する • ボール 	<ul style="list-style-type: none"> • 先生の周りに集合する • 次のゲームの説明を聞く • 親子でペアになる • ボールを持ってジャングル探検 	<ul style="list-style-type: none"> • 次のゲームの説明をする • 楽しく分かりやすく説明する • 実践も加えて説明する • サーキットをジャングルに見たててジャングルにいる動物などを聞く • ペアになれない幼児がいるところは学生に援助してもらう • 一つ一つの場所に保育者についてももらう
11:15		<ul style="list-style-type: none"> • 体育館中央に集合する • 片付けをする 	<ul style="list-style-type: none"> • 幼児が片付けやすいものから片付けるよう設定する • 大きいもの、片付ける際に危険が生じそうな場所は保育者が片付ける
11:20		<ul style="list-style-type: none"> • 手遊びをする • ピクニック • シールをはる 	<ul style="list-style-type: none"> • 工夫を加えた手遊びにする • 繰り返し行う事で楽しさを加えるようにする • 次回への期待が持てるように楽しく明るくあいさつをする • シールを集める楽しさ、シールをもらう喜びを味わえるようにする

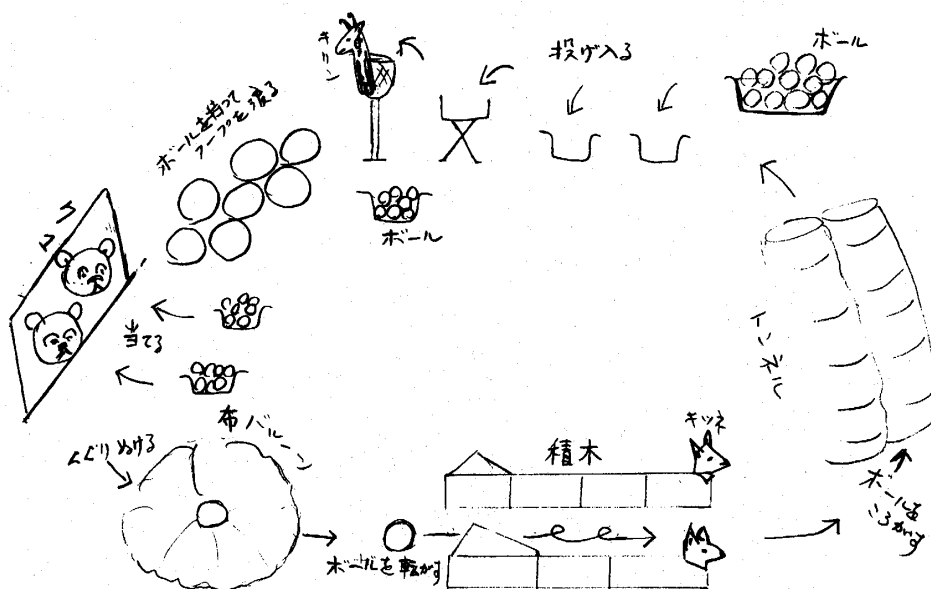


図3 ボール遊び④ -ジャングル探検-

11月27日(土) 10時55分(担当学生6名)

ボール遊び④ -ごっこ遊び形式-

ボール遊びの方法

「ジャングル探検」

図3のようにサーキットを森の中に見たてて、ボールを使って探検していく。

- ① 親子ペアになってまわる。
- ② どこからわわってもよい。
- ③ サーキットのセクション
 - 熊さんの所は当てる
 - バルーンくぐり
 - きつねさんの顔をはりつけてある積み木の間

にボールをころがす

- ・トンネルにボールを転がす
- ・高さの違うボール入れのかごにボールを投げ入れる。一番高い所はキリンさんの顔の絵がはりつけてある
- ・フープはボールを持って渡る

2. ごっこ遊び形式にしたボール遊び④についての考察

A. ボール遊び④に積極的、または容易にやれ るとみられた子どもの態度や様子

学生の観察記録

- ① 動物の絵を見て名前を言っていく。
- ② 片付けも意欲的に競争しながら片付けていた。
- ③ サーキットを森に見たてていたので子どもの興味、意欲を高めていた。
- ④ 片付けも競争遊びしながら片付けるのが楽しそうだった。
- ⑤ 大きな遊具をサーキット遊びのために設定している時、子どもの目は好奇心王政で待っていた。
- ⑥ バルーンの下をとおる時、違う世界へ行くかのような表情をする。
- ⑦ 一人で積み木を片付けようとする。
- ⑧ 高い所のボール入れは大人に抱き上げてもらい玉入れをしようとする。
- ⑨ 玉入れは入るまで何度もチャレンジする。
- ⑩ ボールを通す通路を積み木で作ってあるが子どもたちもボールと一緒に通っていく。
- ⑪ バルーンを持っていると下をくぐったら、ボールをバルーンの上にのせる。
- ⑫ 終わりに遊びに使ったダンボール箱やきつねさんやうさぎさんの絵を欲しがる。
- ⑬ 好きな動物の絵をもらってうれしそうだった。
- ⑭ 動物を的にしてボールを当てるのは、絵が気に入って喜んでいた幼児がいた。
- ⑮ 動物に必死にボールを当てたり絵をもらいたくってはがそうとする幼児もいた。

⑩ ライオンやくまさんにボールパンチを投げるのだが、熱中するとボールはなく、キックやパンチ（足と手）でやっつけようとしていた。言葉がけをするとまた、ボールをとって投げ当てをしていた。

⑪ 動物の絵がサーキットの場所に付いているので子どもたちはうれしそうにまわっていた。

⑫ バルーンも中に入ってうれしそうだった。

⑬ サーキットを森に見たてたのが子どもたちは楽しそうだった。

⑭ 片付けも競争遊びにしていたので、飽きずに片付けていた。

⑮ 動物と遊んでいるみたいで子どもは楽しそうだった。

⑯ 森に見たてたサーキットには関心を持っていた。

⑰ 片付けも楽しんでた。

⑱ サーキットを森に見たてたので子どもの心をつかんだ。

⑲ 片付けも競争にしたので子どもははりきっていた。

B. ボール遊び④で消極的、または困難とみられた子どもの態度、様子

学生の観察記録

- ① ボール遊びではトンネルの中で転がしながら進むのはむつかしいようだ。
- ② 高い所への玉入れは難しい。親にだっこしてもらって投げても入らないので泣き出し子がいた。
- ③ 片付けをする時しじされた以上の物まで片付けてしまう。
- ④ 動物さんにボールを当てないでお姉さんに当ててくる子どももでる。
- ⑤ サーキット遊びの説明が静かに座って聞けなかった。

C. 学生同士の感想

- ① サーキットの設定が「森の中」という雰囲気にもっていくのがよかった。

- ② サーキット遊びを工夫して探検していくのはよかった。

指導助言と感想

- ① チームワークがよかった。
 ② リーダー格を一人決めており、他の者も教材をよく把握していた。
 ③ 教材を前もってよく練り上げていた。グループで相談していた。そのため準備がよくできていた。
 ④ 子どもたちも最後はそれぞれ動物の顔を描

いた物をもって帰り喜んでた。

- ⑤ 動物のトンネルの所はボールを転がさずに自分がキツネさんの顔を見ながら楽しそうに転がしていた。
 ⑥ 言葉説明だけでなく実際に実演もやってみるので子どもたちがやりたくて仕方なく動きだした。なかなか説明している時間が待てないので、子どもたちとやりながら臨機応変も必要。年齢の上の子どもは、人の話しをことを聞くことも大切であることを分からせるようにしたい。

1. 指導案 5

「親と子の運動遊び」 3歳～5歳児の親子26組 平成11年12月4日(土)

本日のねらい	体を動かすことを楽しみながらボールの特性をつかむ		
活動の内容	こんにちは体操, 親子体操, サーキット, ボール遊び		
環境構成点	様々な動きのある遊びの中でいつもと違う環境をつくる サーキット感覚でできる遊びを楽しめるようにする		
時間	環境構成	予想される幼児の動き	保育者の援助
9:40	<ul style="list-style-type: none"> 階段, ステージの片付け カセットテープ, デッキ, マイク, ビデオの準備 使用する遊具の雑巾がけ 遊具の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 体育館に集合する こんにちは体操をする 	<ul style="list-style-type: none"> 出来上がったサーキットの安全確認をする 今日の予定などを話し, 期待が持てる言葉がけをする 集合場所が分かりやすいようにマットを敷くなどしておく 動きが分かりやすいよう言葉と動きまで伝える
10:40	<ul style="list-style-type: none"> 動物の絵を書いた紙を遊具にはる 	<ul style="list-style-type: none"> 体育館中央に集合する 次のゲームの説明をする ボール遊びをする 投げる, 蹴る, 転がす 	<ul style="list-style-type: none"> 十分に休憩時間を取る 幼児の遊びを中断しないように次のゲームの準備をする 分かりやすいように実践を加え説明をしていく ボール遊びをより楽しくするため物語, ストーリーを作る 十分に遊べるよう時間を取る 遊んでいる幼児に充分配慮する 楽しめるようにそれぞれの場所に担当者を付ける 臨機応変に様々な遊びを取り入れる 親子のコミュニケーションがとれるよう親子でサーキットがまわれるように設定しておく ボールの性質がつかめるような言葉がけをする
11:15		<ul style="list-style-type: none"> 片付けをする 	

幼児体育の一考察

時間	環境構成	予想される幼児の動き	保育者の援助
11:20		<ul style="list-style-type: none"> ・ステージ前に集合する ・手遊びをする ♪うさぎさんうさぎさんど うして 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい物から片付ける ・幼児が片付けやすいように一つずつ片付けるように設定する ・大きいもの、危険がともなうものは保護者が片付ける ・幼児の動きに注意する ・前に立ち、一度手遊びをする ・幼児に分かりやすいよう動作を大きくする ・明るく楽しい雰囲気づくりをする ・何度か繰り返し、その場で立ってするという設定をしておく
11:27	・バルーンにメダルを付けたものを準備する	<ul style="list-style-type: none"> ・メダルをもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・バルーンを幼児の手の届く高さにもってしておく ・余ったメダルを幼児に配る
11:30		<ul style="list-style-type: none"> ・シールをもらう ・あいさつをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回に期待が持てるような言葉がけをする

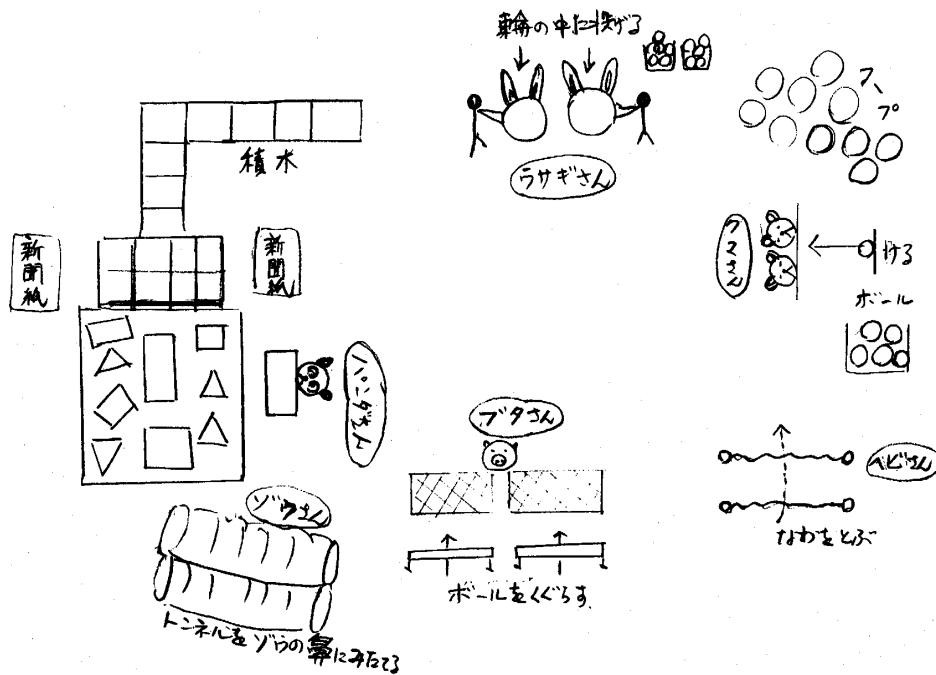


図4 ボール遊び⑤ -動物園-

12月4日(土) 10時55分(担当学生6名)
 ボール遊び⑤ -サーキット形式(みたて遊び)-
 ボール遊びの方法

いろいろなボールを使って、投げたり、蹴ったり、転がしたりしてボールの性質をつかむ。

図4のように、色々な遊具を利用し動物園にみ
 たてて親子でまわり、色々な動物さんにボールを
 えさにみたててあげていく。

① ウサギさんの所では輪の中へボールを入
 れる

- ② 新聞紙は丸めてパンダさんにあげる
 - ③ トンネルにボールを転がし、ゾウさんもえさをあげる
 - ④ ブタさんにも平均台の下からボールをくぐらせてあげる
 - ⑤ ヘビさんの所はボールと一緒にとんでわたる。または、ボールを転がしてあげる
 - ⑥ クマさんの所では、クマさんに届くように蹴ってあげる
 - ⑦ フープは跳んで渡る
- 以上どこからまわってもよい。

2. ボール遊び⑤についての考察

A. ボール遊び⑤で積極的、または容易にやれると見られる子どもの態度、様子 学生の観察記録

- ① 中央にマットを敷いて集合して説明、集中して聞いていた。
- ② 何か一つでも自分の気に入ったものがあると熱中する。
- ③ バルーンの中に入ると、メダル（動物の絵）がぶらさがっており、好きなメダルを取って見せに来る。
- ④ 動物にえさをあげる設定のサーキットを子どもは楽しんでた。
- ⑤ メダルが取れるバルーンの工夫がよく子どもは好き動物をとって喜んでた。
- ⑥ いろいろな動物にえさをあげるという想定（玉入れ、ボール転がし等）幼児が楽しく遊んでた。
- ⑦ ロープをゆらすと足で踏んで止めようとしてたり、今度は自分もやってみようとする。
- ⑧ バルーンの下メダルを勢いよく走って何個もらおうとする。
- ⑨ ボールをえさに見たてて動物達にあげるゲームでは、ボールを抱えきれないくらい、持っていく子どももあり、えさを投げる事より、手で口のところまで持っていった子がいた。
- ⑩ うさぎさんにえさをあげる所ではボールが

- 散らかったのを片付けるように動き始めた。
 - ⑪ バルーンについたメダルを2個もらう子もいた。「1個だよ！」の言葉に「うーう〜ん」と納得しない。結局もらっていく。
 - ⑫ バルーンの下にペンダント（動物）がつるしてありそれをもらえるのがうれしそうだった。
 - ⑬ 親子の会話（トンネルを象の鼻と見たてて設定）子どもがトンネルをくぐる時、お母さんがトンネルの上からたたいて「象さんがのしのしと歩いているよ」と言ったのに対し、子どもはうれしそうに笑った。親子で楽しそうだった。
 - ⑭ 保育者（指導者側）の呼びかけ工夫によってすぐにそれを受け入れ見たてて遊びを楽しんでいた。
 - ⑮ 動物に対応する仕方が子どもによって違う。くまさんにえさを上げる子どもと、くまさんは悪いやつとボールを投げる子とそれぞれ、関わり方が違った。
 - ⑯ ボールの色がリンゴ、ミカンとか食べ物の種類に分けていた。
 - ⑰ メダルを2〜3個もらってくる子がいた。
 - ⑱ 動物にえさをあげる設定の所に子どもは興味を示した。
 - ⑲ メダルを最後にもらえたのがうれしそうだった。
 - ⑳ なわとびも地面につけたままだと興味を示さなかったが揺らすと喜んでた。
 - ㉑ マットに子どもがのっていたので、揺らすと喜んでた。
- ### B. ボール遊び⑤で消極的、または困難とみられた子どもの態度、様子 学生の観察記録
- ① ボールをえさに見たてて、動物達にあげるということが理解できていない。
 - ② 待ちきれず進み出してしまう。
 - ③ サーキット遊具の説明をしている途中幼児は待ちきれずに動き始める。

C. 学生同士の感想

- ① 説明の仕方がうまい。
- ② 音楽をかけて効果をあげている。
- ③ 急に「本を読んで」といったときの対応もよかった。
- ④ 説明を待ちきれずに子どもたちは出発してしまったので説明しながら子ども達を進めていった。
- ⑤ 集合のために大きな輪を作りその中に集合させたのは、子供は集まりよかった。
- ⑥ 保育者の声かけ工夫で幼児は動き出す。
- ⑦ 幼児が持っている世界を広げるための援助が出来るようにうまく呼びかけたい。

指導助言と感想

- ① チームワークがとれていた。
- ② 教材の準備がよくできていた。
- ③ 動物のメダルを作って好きな物がもらえる等の工夫がなされていた。

まとめ

以上がボール遊びについてのみの実践記録である。

子どもたちは、運動を通して多くのことを学びとってくれる。楽しみながら、自分の世界の中で効率的に、かつコントロールしながら動くことを学んでいくことを実践してみて学生自身が体験したことである。このことが発達の視点に立つ幼児体育の必要性への理解につながっていく、しいては幼児理解ともなる。学生の観察記録より発達の視点にたった幼児期の体育指導のポイントとしては学生が学び取ったことは、

- ① 個人の生活環境、生活史、学習環境、家庭環境を考慮。

このことは、親子で運動遊びをしても、親も活発に運動したり、両親ともにまた家族そろって運動遊びに参加する。家庭環境を持っている子どもは活発に身体活動を楽しんだり、安心して活動を続けることができています。地域性

もあるが家庭環境は大きく学習環境をも変えることを指導ポイントとして学んでいる。

- ② 「年齢にふさわしい」活動。このことは、発達段階を踏まえた活動例はあるが、これは一般的なガイドラインにすぎないことへの理解。実際、この年齢だと、どんな遊びが可能か等、理論上分かっているにもかかわらず、個人差があること。子どもの興味の度合いの差を感じ取っている

- ③ 幼児期のボール遊びでは専門的なスポーツスキルを教える前に、発達、洗練されなければならないこと

年齢が低いほど、転がしたり、ついたり、投げたりする遊びをしながらボールの扱い方に慣れ、動きが洗練されていく段階であることに気付いている。なかなか、ボールを使ってのゲームへは持っていくにくい。

- ④ 発達的な運動経験が個人にふさわしいかどうかということ

皆がいっせいに発達的な視点で組んだボール遊びをしても、中に数人の子どもが興味を示さず、他の遊びを始めることを身をもって体験している。その遊びは楽しそうに熱中するのである。その子どもを無理やり引き戻してその運動をやらすべきか、疑問に感じている。

- ⑤ 子どもたちが楽しめる学習教材を工夫、利用グループで、子どもが楽しくボール遊びができるように工夫したグループは、この運動遊びに対する子どもの満足度は高い。活発に、意欲的に動き出している。

- ⑥ 座っていたり、待ったり見たりするよりも、動いたり学んだりすることを主に

待ち時間が多い競争遊びや、遊具の数が少なく順番待ちをしなくてはならない場合子どもたちは退屈したり、泣き出したり、他のことをしだしたり、運動意欲を減退させていることに気付く。

- ⑦ 個人の成功や達成の基準を作り、失敗を最小限にすること

ボールがかごや、目的のところへ入れられな

かったりすると子どもはだんだんと、あきらめムードになり、やめてしまう。ボールが入ると喜ぶ、このことも実際やってみて、子どもたちの反応を感じ取っている。

⑧ 言語での説明より具体例を示すこと

子どもたちに、言語で説明しても理解できず先走って動きだす子、理解できずボーッと立ち止まっている子どもなど、子どもたち皆に見えるように具体的にやってみたり、その物を見せることにより理解してくれることを学ぶ。

以上が今回ボール遊びにしぼってまとめた実践からえた、学生の幼児体育への理解である。

理論上では3歳、4歳、5歳児はこういうことができる、など発育発達している過程を知っている、実際にはなかなか理論通りにはゆかず、一人一人の個性の違いがあり、こちらの意図が伝わらない事を学生は理解したようだ。

良き保育者となるには理論はもちろん知らないより知っている方が子ども理解への目安になるので、指導上大切なことなのである。その上で、実際に子どもに接して理論を実践へ結び付けていく。理論と実践との修正でより良き指導が可能になり、改善されてゆく。

今回はボール遊びでだけの考察であったが、他の遊びについても幼児期の身体活動の必要性を探っていき、良き保育者を目指す学生への幼児理解へとつながれば幸いである。

参考文献

- 1)『幼少年期の体育』 デビット・L・ガラヒュー (杉原 隆 訳) 大修館書店
- 2)『幼児・児童の運動教育』 丸山 富雄・梶原 敏雄 共著 不昧堂出版
- 3)『乳幼児の体育遊び』 現代と保育 編集部 ひとりなる書房
- 4)『保育の創造「保育の中での運動遊び」実践編』 岡本 卓夫 著 タイケン出版
- 5)『子どもと楽しむ「体育ゲーム104」基礎編』 三宅 邦夫 著 黎明書房
- 6)『幼児体育 基礎編』 柴岡 三千夫 著 「タイ

ケン」スポーツシリーズ

- 7)『保育講座 保育内容 健康』 杉原 隆・柴崎 正行 共著 ミネルヴァ書房
- 8)『体育遊び―指導の実践例―』 宇佐美 茂・他編集 ひかりのくに
- 9)『幼稚園教育要領解説』 文部省 フレーベル館
- 10)『子どものふり遊びの世界』 高橋 たまき プレオン出版
- 11)『あそびのひみつ』 河崎 道夫 ひとりなる書房
- 12)『子どもの発達とあそびの指導』 刺使 千鶴 ひとりなる書房